

いたずらラッコのロッコ

神沢利子 作 長 新太 絵



いたずらラッコのロッコ

神沢利子著・長新太絵



1 AKANZZ K10516

いたずらラッコのロッコ



•著者

神 沢 利 子

•発行者

岡 本 雅 晴

•印刷

中央精版印刷株式会社

錦明印刷株式会社（オフセット）

•製本

株式会社難波製本

•発行所

株式会社 **あかね書房**

101 東京都千代田区西神田 3-2-1

電話 東京 3263-0641〈代〉

2000年1月52刷

NDC913

神 沢 利 子

いたずらラッコのロッコ

あかね書房 2000

157 p 22cm

© 1968 Printed in Japan 著者との契約により検印廃止

落丁・乱丁はお取替します。定価はカバーに表示してあります。

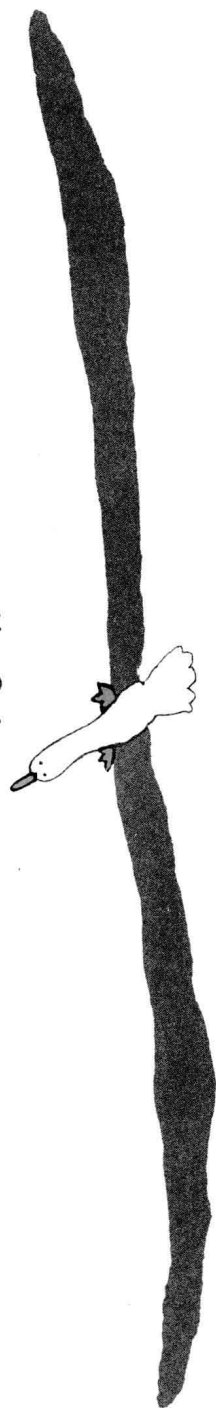
ISBN4-251-06364-3

はじめに

なき虫、おこりんぼ、のん気ぼうずに、おちやめさん——
みなさんには、いろんな顔の、いろんな友だちがたくさん
いるでしょう。

海にすむ動物たちにも、いろんな友だちがいるんです。ラ
ッコという、とても、あそびずきでたのしい動物がいます。
いたずらっこのラッコの子、ロッコや、その友だちも、きつ
と、だれかさんにてるんじゃないかな。

神沢利子





もくじ

はじめに

イタズラッコとおなべの星…… 6

ゆうれい船——おじいさんの話…… 20

ボールおくり…… 29

なきだしたゆうれい船…… 40

ざぶーん どたり…… 52

イルカまつりのはじまり

——おじいさんの話…… 62

イルカまつり…… 71



ひゅうひゅうどつこのうた…… 89

海のランプ…… 97

青いランプとラッコのむすめ

——おじいさんの話——… 109

タカラさがし…… 114

大男のくれたニジ…… 124

うたうパイプ ——おじいさんの話——… 135

大男雪ふらせ…… 146

あとがき…… 156

そうてい
さしえ 長 新太

■ 著者紹介：神沢利子^{かんざわとしこ}



一九二四年福岡県に生まれる。幼少期を北海道、カラフトで過ごす。文化学院文学部卒。詩に児童文学に知的で情感豊かな作品を発表、七八年「流れのほとり」で日本児童文学者協会賞、七九年「いないいないばあや」で日本児童文学者協会賞、野間児童文芸賞を受賞。「くまの子ウーフ」「ふらいばんじいさん」「みるくばんぼうや」「銀のはのおの国」ほか数多くの作品がある。

現住所 東京都三鷹市下連雀

2 10 37

■ 画家紹介：長新太^{ながしんた}



一九二七年東京に生まれる。個性的な漫画、イラストレーション、エッセイなどに活躍。絵本「おしゃべりなたまごやき」で五九年文春漫画賞、七四年国際アンデルセン賞国内賞を、「はるですよふくろうおばさん」で七八年講談社出版文化賞絵本賞を受賞。「ちよびひげらいおん」「ばくはイスです」等の自作絵本のほか、数多くの挿画の仕事がある。

現住所 東京都渋谷区神山町

22 6

* 神沢 利子

いたずらラッコのロッコ





イタズラッコとおなべの星^{ほし}

やわらかなオニワカメが、ゆらゆらとしげっている北^{きた}の海^{うみ}に、ラッコというどうぶつたちがすんでいます。海^{うみ}のそこにもぐっては、かいやウニをとってたべています。

ひらたいしっぽで水をたたきながら、なみの上にあおむけにねているのが、どうさんラッコ。あかちゃんをおなかにのっけてるのが、かあさんラッコ。あそこで、水をかけあつてふざけているのが、イタズラッコ。ちいさなラッコのぼうやたちです。

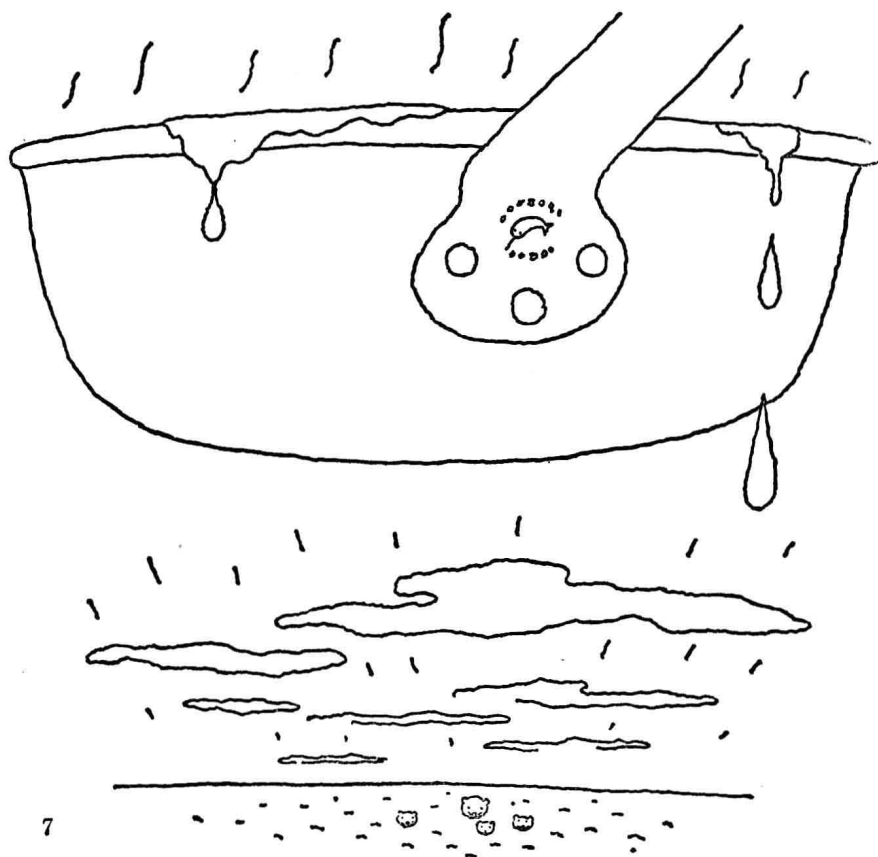
なかでも、ロッコはいちばんのイタズラッコです。ほらほら、ワカメのしげみでねているおじいさんを、おびのようなワカメで、ぐるぐるまきにしています。

おや、こんどは、水にもぐって、かあさんにだかれた、あかちゃんの足を、ぐいとひっぱります。

——だれっ、またロツコだね。
さあ、おしりをたたいてあげ
るから、こっちへおいで。

かあさんは、あわててあか
ちゃんをだきあげます。それ
から、おどかすように、ゆう
やけ空^{そら}をゆびさします。

——ごらん、あんなに空^{そら}がま
つかだよ。天^{てん}の大男^{おおおとこ}が、大き
ななべを火にかけて、スー
プをにてるんだよ。ロツコや、
おまえも、イタズラばかりし
ていたら、大男につかまえら





れちやうよ。

けれども、ロツコは、もういません。とつ
くに、にげてしまいました。

ゆうやけ雲ぐもが、だんだんうすれて、夜よるがき
ました。

—— おやすみなさい。

—— おやすみなさい。

ラツコたちは、ねている間あいだに、なみになが
されてしまわないように、ちゃ色いろいワカメ
を、からだにまいてねむります。あかちゃん
は、かあさんのおなかの上で、小さないち
やんのロツコは、もう、ひとりで——

なみは、ゆりかごのように、ワカメのベッ



ドをゆすります。なみの上に、あおむけてねると、こん夜^キは、まあ、なんて、星^{ほし}が、きらきら光^{ひか}っていることでしょう。

——空^{そら}には、あんなにたくさん星があるんだもの。ぼく、ひとつ、とってきたいなあ。

ロッコは、おもわず、ひとりごとをいいました。すると、となりにねていたおじいさんがいいました。

——なんだい。まだ、ねてなかったのかい。イタズラッコや、夜ね^{よる}ない子は天^{てん}の大男^{おおおとこ}に、あのないで、ぎぶりとすくってつれてゆかれるぞ。

空に八つ、おなべのかたちにならんだ星を

ゆびさして、

——大男^{おおおとこ}はな、あのなべで、カニのスープをにるのじゃとよ。おまえも、いっしょにぐちゅぐちゅと、にてもらいたいかな。さあさ、早く^{はや}おやすみ。ねぼうをすると、おいしいが、たべられんぞ。

——ああ、もうねるよ。おじいさん、おやすみなさい。

おじいさんは、むこうをむきました。けれども、ロツコは、ぱっちりど、目をあいて、小さな声^{こえ}でいいました。

——なんだい、大男、大男って。ぼくがイタズラすると、かあさんも、おじいさんも、すぐに、おこるくせに、大男がなにをしたって、おこりやしないんだ。なんだい、大男。ぼくをつかまえたきや、つかまえる。こっちのほうから、はんたいに、つかまえにいてやるから。

空^{そら}いっぱい星^{ほし}は、どこへいってしまったのでしよう。あかるい空に、カモメがどん

で、ラッコたちは、朝あさごはんの時間じかんです。

海うみのそこらとつてきたかいを、おなかの上にのせて、あおむけにうかんたままいをたべています。ロッコも、なかよしのレッコも、おなかの上にのつけた小石こいしに、かいをぶつけて、かいをわってば、たべています。

——いやーん、カモメが、あたいのかいをとってったあ。



レッコがなきだし、

——やい、ドロボウめ。

ロッコのなげた小石^{こいし}は、なみに、ぼちゃんと、おちました。

——なくんじゃないよ、レッコ。ずっとむこうに、おいしいウニのあるところを、ぼくしってるんだ。こっそりぬけ出^でて、とりにいこうよ。さあ、ぼくについておいで。

あーんああん、なっているレッコをつれて、ロッコは、なかまたちからはなれました。海^{うみ}にもぐっては、おなかをそらせてとびあがります。しぶきがきらきら、ニジのようです。もう、ずいぶん、とおくまできました。海^{うみ}のそこにもぐっていくと、カレイが、ぱたぱたおよいでいます。岩^{いわ}の上に、むらさきのウニが、いくつもみつかりました。ふたりはウニをかかえて、うかびあがります。なみの上で、ウニのからをわって、かぶりつきます。ちゅつとすいこむウニの、なんておいしいこと！

おなかがいっぱいになったロッコは、こんどは、カニをつかまえます。

——ほら、こいつ、もってかえって、おじいさんのヒゲに、ぶらさげてやるんだ。

——およしなさいよ。ロッコ、ほら、カニがおこってくるわ。

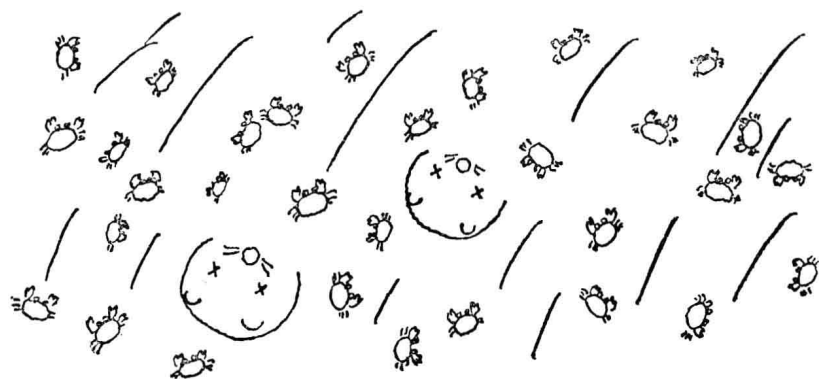
ハサミをふりあげて、やってくるわ。

あちこちの岩^{いわ}のかげから、たくさんのカニが、目王^{めだま}をむいて、
ロッコめがけて、おいかけてきます。

——なんだい。カニなんか、こわくないや。くるならこい。

ロッコが、どなった時^{とき}です。海^{うみ}ぜんたいが、ぐらぐらつとゆれたかとおもうと、イナズマのように光^{ひか}る大きなものが、おちかかってきました。きゃーと、レッコが、しがみつき、ふたりは、だきあったまま、目をつぶりました。天^{てん}からおちてきた大きなべが、海の水ごと、ふたりをすくいあげたのです。なべは、ぐーんと、天へもちあがり、カニたちは、ぶつかりあって目をまわしました。

——ほっほっ、カニどもが、ごじょごじょとれおったわい。



大男^{おおとこ}が、なべのなかを、のぞきこみました。くびをかしげて、ロツコをつまみあげました。

——おや、へんなやつが、まじっとる。ふん、ラツコのちびだな。はあ、おやたちからはなれて、うろろうしとったイタズラツコめ。ラツコは、カニよりまずかうが、どれどれ、いっしょに、にてやろう。これ、ちび、そんなににらむと、おまえもカニのように、目玉^{めだま}が、とびでるぞ。

大男は、ぼいと、ロツコを、なべにおとしました。

——火をおこすには、間^まがあるわい。さてひとやすみしようかい。

大男は、こしかけにこしをおろしたまま、ぐうぐう、いびきをかきはじめました。

——あーんあーん、大男に、つかまったあ、スープにされて、たべられるよう。

レツコが、なきだしました。カニたちも、なべのふちをのぼろうとして、すべって落ちるもの、おしあいへしあい、大さわぎです。

——なくなよ、レツコ。おい、カニくんも、女の子みたいに、ないてばかりいないで、